

報



會

會 岳 山 本 日

2

月一十年五和昭

旅人としての

田山花袋

アルプスの登山史を續いて見ると、いつの時代にも、必ず二つの異つた山登りの傾向が見出される。そのひとつは、飽くまでも山岳への激しい闘争と、その困難なる闘争のうちに登高精神の高揚と征服慾の充足とを求めようとするものであり、他のひとつは、ひろく山岳を彷徨ひ歩くことに依つて、深く自然を味ひつゝ、遂には自分をも全く自然そのもののうちに融合せしめることを以つて最終の理想とするものである。一は高きを望み、一は遠きを希ふ。いはば前者が求心的で積極的であるに反し、後者は遠心的で消極的な態度といふことが出来る。この二つの對立的な傾向は、登山の發達の伴ひ、特に近代のスポーツとしての登山の勃興につれて、益々確然と各々の姿を現すやうになつた。そして或る人達は、後者を單なるさまよひ歩き又は旅として、眞實の山登りから區別しようとした。そうした登山の解釋又は定義の當否はしばらく擱き、とにかく二つの對立的な著しい傾向が山登りの上に於て存在したことは事實である。しかしながら、山岳人の多くは、それに強弱の差こそあれ本質的にはこれらの傾向を二つながらもつてあるやうに思はれる。優れた近代山岳人の多くが、一面に於て如何に自由なウォンダラーであつたかを顧るとき、更に私はこの

考へを深くするものである。そしてこの二つの傾向が、各々如何なる程度に現れてくるかといふことは、個人としてはその人の性格稟性と環境（境遇と自然と時代）とに依つて、おのづから規定されるものであらう。

×

明治時代に例をとれば小島烏水の「日本アルプス」と、田山花袋の「紀行文」とは、この二つの傾向の代表的な現れである。烏水は日本の初期の登山界を代表する登山家の一人である。花袋はもちろんさういつた意味の登山家ではなく、飽くまでも一個の旅人であつた。従つて彼の作品はこんにちの謂はゆる登山記録や登高記では勿論ない。しかし彼は偉大なウォンダラーであつた。彼の時代に彼ほど深く自然に觸れた人はない。彼ほど強い旅心をもつて日本の各地に足跡を残した人はいない。彼の旅は、今日流行のいはゆる低山趣味や快適な遊山的旅行とはおよそ遠いものであつた。彼こそほんとうに旅人の情熱を情熱した人だ。彼の作品は決して單なる皮相淺薄な寫生文でもなく、形式的な美文的紀行でもない。更により深い旅人のこころをもつて、自然の核心に觸れ、人生の眞相を極めてゐる。それと同時に、あの流暢な文意を通して、山奥の、片田舎の、まつたく世人の耳に新しい幾多の山や川や村里などを紹介したことは、少くとも一部の登山家にとつては忘れ難い恩恵であつた。

伊藤秀五郎

或る山小屋

バルチーデルといふのは恐ろしく長い谷であつた。人家を離れてから物の五時間も歩いたのに氷河の足もとにも來ない。たゞ谷の狭まつてゐる有様が何となく日本の山でもうろついてゐる様な氣を起させたのと、晝飯の時に五月蠅くつきまゝ山羊をとつかまへて乳を搾き上げたのが儲けものであつた。

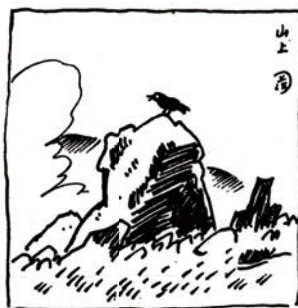
さうやつて漸くの事でモレインの下のだづくりにとりついたのは、山羊と分れてから二時間もあとの事であつた。之を越えれば氷河。小屋ももう遠くはあるまいと掉尾の勇を振つて登り切つて見て驚いた事には、あたりはたゞごろた石の荒野原。谷はぐうつとそのまゝ遙彼方まで食ひ入つて居る。小屋等は姿もみせぬ。之で氣が遠くなる程華車な出来でもないが、あてが外れた事夥しい。小屋は一體何處だといと聞くと突き當りの山の中腹だと云ふ。成程丹念に探すと心細い程小さくそれらしい物が氷河のつきあたりりの岩の根元に乘つてゐる。シャボテンぢやあるまいし、誰が此の七月の午後の太陽に照され乍ら、ごろた石の砂漠を歩けるものかと、一應は憤慨しても見たが小屋が此方へ来る氣遣ひがないので、仕方なしに、蜃氣樓に浮ぶ龍宮みたく、陽炎の中に、危つかしくゆれてゐる小屋をさして、歩き出した。來てみると、併し、小屋は驚く可きものであつた。小さくはあるが立派

に石で周りを積み上げた豪勢なものである。全くよく／＼人を驚かさす小屋である。それに二重窓の中には桃色のカーテンなどがかゝつてゐて、部屋の中の空氣までが何となく暖い。之で壁にひからびた雜糞なんか、かゝつてなかつたらと思つたが、それは故人になつたクラウゼ氏の遺品であり、その人の喜捨によつて此の小屋が建てられたのだと識つては之も却つて懷しい。

私達は太陽がビーチホルンの向ふ側に落ちるまで小屋の前で干し物をしたり、山手によつて此の小さな可愛らしい小屋を眺めたりした。大きな氷河を距てた向ふの直緒なビーチホルンといかにもよく釣合つて、此の小屋は見るからに美しい。お伽噺式にいへば山の間に取り違されたお姫様の寶石箱とでもいふのだらう。此の晩は私達の連れにあつた二組、合せて十人ばかりが此の寶石箱の中であつた。尤もあとの一組は夜遅く着いたので、私はその人達の聲だけしか聞かなかつた。そして翌日太陽の上る頃、私達はもうビーチホルンの北尾根で風にさらされてゐた。

アルペンに小屋は多い。バルチーデル・クラウゼの小屋は比較的新しいといふ以外には特別に取立てて云はれる程の小屋ではないかも知れない。併し、不思議に私は小屋といふと此のバルチーデルの谷に置き忘れられた寶石箱を想ひ出す。まるで山小屋のシンボルでもあるかのやうに。

松方三郎



會務報告

十月定例幹事會

雜誌編輯に關する件

二 關西在住會員集會に關する件

三 二十五週年記念講演會の件

評議員會 十月十四日

一 關西在住會員集會に關する打合

出張旅費に關する件

三 「山岳」及「會報」の編輯、講演會準備に關する報告

關西在住會員懇談會

十月二十六日大阪に開催（別項參照）

十一月定例幹事會

一 「山岳」の定價、印刷部數に關する件

二 二十五週年記念晚餐會の件

三 關西の懇談會に關する報告

創立二十五週年記念講演會

十一月七日午後六時朝日講堂に開催

僅たり約八百名の入場者あり。講演・映畫順序よく運び九時半閉會。

研究會報告

十月廿三日夜六時から本會集會室に於て研究會開催、日本では未だ權

威あるガイド・ブックが出版されてゐないので此の方面の研究を試みることにする。

先づ穂高連峯に關しての材料を集めることとなつた。

一、岳川谷を中心する穂高連峯

一、横尾谷と本谷と洞谷

一、又白谷

一、飛騨側

一、槍ヶ岳方面よりするもの

登降路、小舎、時間記録、殊に興

味深き個所等の諸點を、殊にその方面に精通する人人十六氏に委嘱して書いて頂くことにした。

又一般會員の御注意なり、御援助

なりを得ることが出来れば幸である。會員諸君の中で研究會に出席希望の方は研究部藤田宛御照會願ひ度

い。

關西研究部第一回集會

十一月九日午後五時より京都帝大

學友會館内に於て、雪崩の研究會を開く。從來の雪崩の分類法を捨て、

新に山岳人の觀點よりする最も適切なる分類法に就ての研究を進める。

今西、西堀兩氏より意義ある研究發表あり。出席者多く非常に盛であつた。

今後此の集會は今西錦司、三木高

嶺、藤木九三、三氏が司會者として發達させてゆくこととなつてゐる。

關西在住會員集會

十月二十六日大阪美津濃ビルに於て開催。東京より小島評議員松方幹

事出席。集る會員、田中、榎谷、山崎の關西幹事を始めとして合計三十五

名。晚餐會の後別室に於て座談にうつり、會員相互の意見交換あり。又

會務に關しては夫々幹事の側より會員の質疑に應ずる所あり。關西在住

會員の會合は、今回から會合を復活するを得しは會せる者の等しく喜びとする所であつたのみならず、相互の忌憚なき意見の交換のあつた事により會合の意義を一層深からしめた事は疑ない。將來から會合を通して東西の聯絡が一層頻繁にとられるならば會の發展のために資する所必ずや少なくないであらう。

名。晚餐會の後別室に於て座談にうつり、會員相互の意見交換あり。又

會務に關しては夫々幹事の側より會員の質疑に應ずる所あり。關西在住

會員の會合は、今回から會合を復活するを得しは會せる者の等しく喜びとする所であつたのみならず、相互の忌憚なき意見の交換のあつた事により會合の意義を一層深からしめた事は疑ない。將來から會合を通して東西の聯絡が一層頻繁にとられるならば會の發展のために資する所必ずや少なくないであらう。

名。晚餐會の後別室に於て座談にうつり、會員相互の意見交換あり。又

會務に關しては夫々幹事の側より會員の質疑に應ずる所あり。關西在住

會員の會合は、今回から會合を復活するを得しは會せる者の等しく喜びとする所であつたのみならず、相互の忌憚なき意見の交換のあつた事により會合の意義を一層深からしめた事は疑ない。將來から會合を通して東西の聯絡が一層頻繁にとられるならば會の發展のために資する所必ずや少なくないであらう。

名。晚餐會の後別室に於て座談にうつり、會員相互の意見交換あり。又

會務に關しては夫々幹事の側より會員の質疑に應ずる所あり。關西在住

會員の會合は、今回から會合を復活するを得しは會せる者の等しく喜びとする所であつたのみならず、相互の忌憚なき意見の交換のあつた事により會合の意義を一層深からしめた事は疑ない。將來から會合を通して東西の聯絡が一層頻繁にとられるならば會の發展のために資する所必ずや少なくないであらう。

名。晚餐會の後別室に於て座談にうつり、會員相互の意見交換あり。又

會務に關しては夫々幹事の側より會員の質疑に應ずる所あり。關西在住

號を無効とし、新に會員章番號一二五二號を同氏番號に登録した。

雜誌「山岳」投稿規定

編輯所 東京市芝區琴平町不二屋

ビル三〇七號 日本山岳

會編輯係宛

締切期日 次號（二十六第一號）

は昭和六年一月末日

一、原稿の探否は幹事會に於て決定す。

一、原稿は一切返送せず。

一、別冊又は別刷希望の方は、その旨原稿に朱記せられ度し。但しその費用は筆者の負擔とす。

一、原稿に梗概を付記せられ、ば編輯進行上非常に好都合なり。

一、紀行には概念圖を添付せられ度し。

一、寫眞は光澤印畫紙に焼付られ度し、裏面或は別紙に説明記入を乞ふ。且記事との關係上特に重要なものはその旨記され度し。

一、校正は止むを得ざる場合の他、編輯者に一任せられたし。

一、地名、外國語は明確に書かれる様注意あり度し。

會員木村謙吉氏寄贈書

不二山 小島 鳥水

日本山水論 同

富士山大觀 同

箱根山 大町 桂月

旅より旅へ 吉江 孤雁

日本名所事彙 物集 高量

ふところ硯 運塚 麗水

瀬戸内海論 小西 和

嚴島誌 重田 定一

埃及聖地旅行談 山田寅之助

臺灣中央山脈橫斷記 賀田 直治

中亞探險 橘 瑞超

印度探險 大谷 光瑞

富士山奇觀 小國民臨時增刊

地學叢書、ヘーティン號 東京地學協會

朝鮮金剛山探勝記 竹内 直馬

蒙古旅行 鳥居 龍藏

日本名所圖會 石倉 重繼

日本之山水 碧 梧 桐

アルペン行 鹿子木員信

山河拾四州 玉井 紅葩

最北の日本へ 伊 藤 修

箱根大觀 佐藤善次郎

日本周遊奇談 井上 圓了

わたり鳥の記 上原 敬二

日本アルプスへ 窪田 空穂

木曾の神秘境 村井 弦齋

支那漫遊記 德富猪一郎

希臘紀行 濱田 青陵

東京郊外名所めぐり 小菅 廣勝

朝鮮名勝記 渡邊 天倪

山嶽めぐり 二宮 哲汀

順禮紀行 石上録之助

甲州案内 德富健次郎

中華三千哩 山梨時報社

淺間登山の友 山浦 瑞州

支那に遊びて 碧 梧 桐

赤石白峯山脈縱橫記 原口 享

日本名勝地誌（東山道上・下及東海道上） 野崎 左文

支那大觀 福田 眉仙

購入書

Schmittals, Die Alpen

J. J. Schütz, Wunder der Alpen

新刊紹介

關西學生山岳聯盟報告 第一號

創立以來一年半を経た關西學生聯盟は、その間の收獲としてその第一回の報告を公表した。加盟各校の十頁に亘つて記載されてゐる。日本の登山界に眞に關心を持つ人々に、熟讀をお勧めし度い。(定價一圓五十錢、送料六錢、京都市吉田・帝國大學旅行部内關西學生聯盟宛申込の事)

Jacques et Tom de Lepiney.

"Sur les arêtes du Mont Blanc," (Dartel, 1929) Fr 25.

モンブロン諸峯の登攀記を集めたもので、「目新らしい」ともないが佛語を以て綴られた山岳文獻は少いから敢て上梓する」と序に断つてゐるが中々優秀な記録を盛つてある。寫眞が見事である。最近英譯され、Climbs on Mont Blanc (Arnold) として出版された。

Guido Rey.

"Alpinisme Acrobatique," (Dartel, 1929) Fr 30.

久しく絶版となつてゐたギド・レイの佛譯本が再版された。イートンの名譯 "Peaks and Precipices" Fisher Unwin, London 1914. に依つて既に我國にも知られた名著である。

Emile Gilard.

"L'Aiguille de Bionnassay," (Dart-

el 1929) Fr 6.

モンブロン諸峯中、四千米を抜く二十七峯の第十六番目に位するエギエ・ド・ピオンナツセイに關する地誌的考證、登攀史、紀行、參考書目等を收録せるものである。



關西學生山岳聯盟消息

十一月九日午一時より京都帝大樂友會館に於て聯盟總會を開催した。聯盟の成績報告、此の冬の計畫、來年度の豫定、並に新任役員の發表あり。後に浦松佐美太郎氏の講演があつた。聯盟の報告第一號は當日配布せられた。

福岡山岳談話會

地方の山岳愛好者の集會機關として會員竹内亮氏の發起、縣體育協會の後援にて福岡山岳談話會を組織し十一月八日午後七時よりその第一回例會を福岡市縣立圖書館樓上にて開催した。席上竹内氏の開會の辭、吉村縣體育協會理事のあいさつについて玉井虎太郎氏の新高山の話、今村嘉藏氏のキリマンチアロ登山紀行抄讀、竹内氏の九重山麓に關する寫眞及スケッチの供覽等あり十時散會、來會者廿七名盛會であつた。本會員の山田光男氏出席せられたり。

越後山岳會 十一月二日と三日の休日、幾組も山へ入る豫定でしたが

其の中火打山、焼山、笹倉温泉行きの組は杉ノ澤村の長助から、妙高山は

大雪にて中止せよとの電報で、又栃堀村から守内岳への組は豪雨を危んで、胎内川の紅葉を眺め、飯豐の銀嶺を仰ぎ見る二王子岳行きの組に參加して一行は十名になりました。吹雪にも係らず、一行愉快な日を送つて來ました。(會員通信参照)



冬の山小屋

去る十月中旬冬期登山の重要な根據となるべき山小屋に問合をなした左記の項目に就て回答を求めた。

小屋の名稱

A 照會先

B 宿泊料又は使用料

C 備付品の有無及使用料(食糧、寝具、燃料)

D 備考

本會の問合に對し小屋主及管理者が皆詳細なる回答を御送り下された事を深く感謝しなければならぬ。冬期登山者の受ける利益は非常なものであらう。

以下列記した小屋は本年六月本會編纂、梓書房發行の山日記中の山小屋欄より必要と思はれるものを撰擇再調査を爲したものである。又山日記に記載せられなかつた山小屋で新

に加へたものもある、調査は十一月十日を以て切つてある、未回答の分は次の機會に發表の豫定である。

今回は主として各山小屋の冬期の備付品の調査である。そして又紙面の關係より出來得る限り簡単な記述をしてゐる。それ故山小屋の位置、建設年度、收容力其他の項目は山日記を参照せられたい。次に冬期使用の適不適を決定する事は非常に困難である。戸締りのない雪の吹込む儘に置かれた小屋以外は使用に耐え得るものと看做してゐる、又期節に依り状況を異にしてゐるものもある、例へば十二月より一月に亘つて使用に耐える小屋も二月三月には雪に埋没するものもある。故に以下列記の小屋の總てが冬期使用に適すると断言も出來ない。それ故に冬山に入られた方々の調査報告を御願ひしたい。終りに山小屋主の寄せられた希望を此處に發表して置く

一、夏期以外の登山者の山小屋備付品を使用後亂雑にして置く爲に小屋主の被害は毎年大きなものである。使用後は元通りに整頓をなすこと。
二、冬期山小屋使用料及び備付品使用料の規定あれども今迄登山者の小屋料を支拂たものの殆どなしと云はれ、小屋もある。使用料は必ず拂ふべきである。

右二項は登山者の道徳心を待つより外はないが一方山小屋經營者も將來、くる不徳登山者のあつた場合には報告せられたい。何等かの方法に依つて發表したいと思つてゐる。

北海道地方

ヘルヴェチヤヒユツテ A 札幌北大醫學部教授山崎春雄 B 無料 C

寝具燃料あり、薪代一日一人五錢

朝里岳ヒユツテ A 小樽スキー俱樂部、事務所小樽市稻穂町梅屋運動具店 B 一泊會員二〇錢一般四〇錢

日歸り使用料一團體一日五〇錢 C

食器の備付あり寝具藁蒲團二〇枚毛布六〇枚燃料薪豐富 D 宿泊及使用に際しては必ず事務所に申出で使用票と鍵を受取る

中山ヒユツテ A 北海道虻田郡喜茂別村字黒橋、三上喜六 B 一泊二〇錢日歸り使用料一〇錢の見込 C

寝具毛布藁蒲團あり燃料豐富

萬計小屋 A 札幌市帝室林野局札幌出張所 B 無料 C 燃料あり薪代として一泊一人五錢 D 本小屋は空沼小屋に近接し造林巡視用のものにてスキーシーズン中一般に貸與するものなり。

東北地方

化澤小屋 A 福島市萬世町宗則榮吉 B 石炭代として志を受ける C

ストーブ及石炭の備付あり

權現小屋 化澤小屋に同じ。

青木小屋 A 山形縣板谷驛五色温泉宗川旅館 B 一泊二食付一圓一〇錢 C 食糧寝具燃料あり宿泊料に含む。

コーポルトヒユツテ(藏王山) A

山形市山形高等學校山岳部 B 一人一泊五〇錢 C 燃料として薪及び炭の備付あり。

關東北部

尾瀬沼長蔵小屋 所在上州利根郡尾瀬沼東畔、地圖燧岳 A 上州利根郡片品村戸倉萩原方氣付 B 一泊三食付一圓五〇錢 C 食糧寢具燃料あり。

白樺小屋 所在上州利根郡水上村大字湯檜曾字白樺、地圖湯澤、湯檜曾川本流武能澤間の尾根を約五十米登る 建設昭和五年 收容人員約二〇人 A 東京高等師範山岳スキー會管理、事務所上州湯檜曾温泉本家旅館 B 一泊三〇錢 C 寢具燃料あり

毛度澤笹小屋 所在仙の倉山北方毛度澤ガキイノマチ澤出合、地圖四萬建設昭和五年收容人員一〇人位 A 越後南魚沼郡土樽村銀持政吉又は東京市麹町區法政大學山岳部 B 無料 C 燃料炊事具備付の豫定 D 今秋短日時を以て建てたる笹葺の假小屋なり、冬期使用を目的とす、希望者は豫め通知をなすこと。

岩雪山草津白根山附近
志賀高原丸池ノ小屋 A 長野市權堂町長野電鐵株式會社運輸旅客課 B 一泊三食付一圓、二食付八〇錢 C 白米一升二五錢味噌一〇錢醬油一〇錢毛布二枚續一枚二〇錢薪大二〇錢小一〇錢(各一把) D 番人滞在する向目下同小屋附近にスキーヒュッテ建設中、二階建收容人員四五名宿泊料一圓五〇錢内外の豫定、使用公開規定未定

香山樂園 A 上州吾妻郡草津町一井旅館市川善三郎 B 一泊二食付一圓八〇錢、素食五〇錢 C 全部備付あり D 滞在の場合に割引あり 尙白根山芳ヶ平にスキー小屋あり。

ハケ岳

稻子小屋 A 信州南佐久郡小牧村稻子牧場内菊地榮吉 B 使用料は思召 C 燃料あり

白駒小屋 A 信州諏訪郡平局湯温泉 B 使用料思召 C 燃料あり D 約一里を經たて、温泉水あり、年中營業す。

見晴小屋 所在蓼科山双子池東北下方約二十町大河原峠登路筋にあり建設大正二年 收容人員二〇人 所屬日田營林署 A 信州南佐久郡日田町日田營林署若しくは日田山岳會 B 無料 C 燃料あり D 使用者は豫め日田營林署の使用許可證を得ること

美ヶ原登山小屋(松本東山) 所在地圖和田、美ヶ原南麓三城牧場 收容人員五〇人位 A 信州東筑摩郡入山邊村原 飯ヶ濱幸一 B 一泊三食付一圓 C 食糧寢具燃料あり D 番人滞在す。

頸城アルプス

笹ヶ峯スキーヒュッテ A 京都都大旅行部 B 小屋代一人一泊一〇錢 C 合宿中以外に食料なし寢具毛布あり薪代一人一泊二〇錢 D 使用希望者は使用規定と書式用紙を請求の上使用許可證を交付すること。

北アルプス
白馬スキー小屋 A 信州北安曇郡北城村四ツ谷白馬館 B 一泊三食付一圓五〇錢乃至二圓、使用料一人一泊七〇錢(水炭薪を含む) C 食料白米三石味噌二十貫副食物若干。寢具布團三〇枚毛布二〇枚、燃料木炭十三俵薪木約三千貫 D 十人以上の團體は宿泊料一圓二〇錢、本年南股スキー小屋建設せり收容人員三〇乃至四〇人 初心者練習に適す 大池小屋も冬期使用し得る但し諸設備なく什器のみ。

白馬頂上小屋 A 白馬館 B 使用料五〇錢 C 食糧白米五斗味噌四貫什器一式寢具毛布二〇枚燃料木炭一五俵薪木約二千貫 D 公德販賣を以てす木炭一貫五五〇錢白米一升四〇錢、尙夏スキー三臺備付あり。

八方小屋 A 白馬館 B 使用料五〇錢 C 食糧白米五斗味噌五貫什器一式寢具毛布二五枚燃料木炭八俵 D 公德販賣、物價頂上小屋に同じ。

唐松小屋 所在八方小屋附近 A 白馬館 B 一泊五〇錢 C 食料白米五斗味噌五貫什器一式寢具毛布二五枚燃料木炭一八俵 D 公德販賣物價頂上小屋に同じ。

中繼小屋 所在八方池西南方 A 白馬館 D 詳細不明追て發表

大澤小屋 A 信州北安曇郡大町對山館 B 一人一泊七十錢(寢具燃料付) C 食糧申込により準備す寢具燃料備付あり。

針ノ木峠小屋 所在針ノ木峠頂上建設昭和五年七月收容人員五〇人 A 對山館 B 一人一泊七〇錢(寢具燃料付) C 食糧申込により準備す寢具燃料備付あり D 大澤小屋と共に團體申込に就ては割引をなす。

濁小屋 A 信州北安曇郡大町竹村多門治 B 一泊八〇錢 C 寢具燃料あり。

湯股温泉(湯股出合小屋) A 濁小屋に同じ B 一泊八〇錢 C 寢具燃料あり D 使用の際には豫め通知をなすこと。

烏帽子小屋 A 信州南安曇郡安曇村上條文市 B 思召し C 寢具あり

三蓮華小屋 A 信州南安曇郡安曇村前田順市 B 不明 C 食糧少量寢具あり燃料僅少。

弘法茶屋 A 越中新川郡立山村芦峠寺佐伯曜光 B 一泊三〇錢 C 食糧白米二石五斗、一升八〇錢 味噌一〇貫、百匁二〇錢 寢具毛布三〇枚燃料木炭五〇俵、一俵三圓薪二〇〇束、一束一圓 D 公德販賣支拂方法諸途佐伯曜光に直接支拂ひ受領證の交付を受け置くこと、案内者の委託支拂は弊害を伴ふことあり、設備今冬販賣器具の改良、室内便所の新設をなす。

立山室堂 A 佐伯曜光 B 一泊五〇錢 C 食糧白米五斗五升(外倉庫には一石二斗あり)一升八五錢 味噌六五貫、一〇〇匁二五錢 寢具毛布二〇枚(倉庫に布團一〇〇枚) 燃料木炭二〇俵一俵四圓 薪一五〇束

一東二圓 D 公德販賣支拂方法は弘法茶屋に同じ、便所通風の改善をなす、在庫品は特に管理人より承諾を得鍵を借りること。

御前小屋 所在北山別山乘越雷鳥澤寄り 建設昭和五年 收容人員一〇〇人 A 越中新川郡立山村芦峠寺佐伯曜光又は佐伯曜光 B 一泊五〇錢(寢具燃料として) C 食糧白米一石六斗、一升九錢 味噌二貫、一〇〇匁二五錢 寢具布團二五枚 燃料木炭二一俵 一俵四圓二〇錢 D 公德販賣支拂方法同前

平ノ小屋 A 越中新川郡立山村芦峠寺志鷹彌三太郎 B 無料 C 食糧米味噌豐富寢具布團五十枚(一人前五〇錢) 燃料薪あり。

五色ノ小屋 A 平ノ小屋に同じ B 無料 C 食糧米味噌豐富寢具布團五十枚(一人五〇錢) 燃料薪あり(一人五十錢)

スゴウ乗越小屋 A 越中新川郡立山村芦峠寺案内組合事務所 B 無料 C 食糧、寢具あり(白米一升一圓 味噌一〇〇匁三〇錢 布團一枚四〇錢) 燃料なし D 食糧及寢具は箱の中にあり、使用後は必ず整頓をなすこと。

上ノ岳小屋 A 立山村芦峠寺佐伯八郎 B 無料 C 食料味噌のみあり 寢具布團(一枚一泊五〇錢) 毛布(一枚一泊二五錢)あり燃料豊富に備付あり D 寢具は三人分、米一斗餘、味噌二樽、燃料薪のみ。四月下旬には經營者登る豫定なり。

燕山莊 A 信州南安曇郡有明村燕

山莊事務所 B 一泊寢具付五〇錢燃料及寢具付八〇錢 C 食糧米二斗味噌醬油若干あれども携帶せられたし寢具二〇人分程あり、燃料ありD 使用希望者は豫め通知を發すること。

西岳小屋 A 信州南安曇郡有明村中房温泉又は東筑摩郡芳川村中村喜代三郎 B 一泊三〇錢寢具付五〇錢寢具燃料付八〇錢 C 食糧米味噌あり(一升七〇錢一〇〇分三〇錢)寢具毛布及布圍あり燃料薪あり。

常念小屋 A 松本市六九町山田利一 B 一泊六〇錢 C 寢具燃料豊富に備付あり D 料金支拂は山田利一又は松本驛前松田登山具店宛。

槍肩ノ小屋 A 飛騨吉城郡上寶村神坂沖田信安 B 一泊五〇錢 C 食糧米味噌あり(一枚一泊一〇錢)燃料薪あり(一枚一泊一〇錢) D 物資注文により準備す。

槍平小屋 A 肩ノ小屋に同じ B 一泊五〇錢 C 食糧米(一升六〇錢)あり味噌(一〇〇分二〇錢)あり寢具布圍あり(一枚一泊一〇錢)燃料薪あり(一枚一泊一〇錢) D 多數登山せられる場合は御通知次第相應に準備す。

穂高小屋 A 飛騨吉城郡上寶村蒲田今田重太郎 B 一泊八〇錢 C 食糧白米一斗二升味噌一貫匁あり寢具布圍毛布等あり燃料炭及薪木あり D 其他釜鍋七輪等の備付あり

殺生小屋 A 西岳小屋に同じ B 一泊三〇錢 C 食糧米(一升七〇錢)味噌(一〇〇分三〇錢)あり寢具布圍毛布あり(一人二〇錢)燃料薪あり(一人三〇錢)

大槍小屋 A 松本市六九町穂刈三壽雄 B 一泊六〇錢(燃料共) C 食糧米味噌あり

槍澤小屋 A 大槍小屋に同じ B 一泊六〇錢(燃料共) C 寢具燃料あり

一ノ俣小屋 A 常念小屋に同じ B 一泊六〇錢 C 寢具燃料豊富にあり D 支拂は山田利一又は松本驛前松田登山具店宛。

徳澤小屋 所在地圖焼岳梓川流域徳澤牧場建設昭和四年收容人員五〇人 A 信州南安曇郡安曇村島々上條喜藤次 B 當地各小屋の料金に従ふ C 食糧米味噌又野菜若干寢具燃料あり D 當小屋は本年始めての試にて料金確定せず、使用希望者の注文により入用品は準備をなす。

清水屋ホテル 冬季營業所は温泉側の庄吉小屋と定め、宿泊料は實費、食糧寢具燃料一切の備付あり。

燒ノ小屋 A 信州南安曇郡安曇村島々奥原英男 B 無料 C 備付品なし。

中ノ湯温泉 A 信州南安曇郡安曇村稻核小林繼太郎 B 十二月下旬迄營業をなし宿泊料は普通一圓五〇錢其後は番人を置く C 食糧寢具燃料は充分備付あるも但し御馳走なし。

岩魚留小屋 所在地圖焼岳島々谷上流、徳本峠下收容人員約二〇人 A 信州南安曇郡安曇村島々清水屋旅館 B 不明 C 食糧寢具燃料備付あり D 冬期間中番人滞在す。

鈴蘭小屋 A 信州南安曇村安曇村大野川福島清毅 B 一泊一圓四〇錢辨當三〇錢食糧食三錢 C 食糧白米一升四〇錢味噌一〇〇分一五錢其他時價寢具あり(布圍一枚一泊一〇錢)燃料あり(薪一束三〇錢炭一貫匁三錢) D 右物價は宿泊者以外のものにて附近の小小屋に自炊希望者の爲に販賣す、作小屋使用希望者は申込次第便宜を計る使用料二五錢乃至三〇錢。

乗鞍冷泉小屋 A 鈴蘭小屋に同じ B 一泊三錢 C 食糧あり(米一升六〇錢味噌一人分五錢)寢具布圍あり(一枚一五錢)燃料豊富にあり薪一束三五錢炭一貫匁五錢。

乗鞍冷泉小屋 A 鈴蘭小屋に同じ B 一泊三錢 C 食糧あり(米一升六〇錢味噌一人分五錢)寢具布圍あり(一枚一五錢)燃料豊富にあり薪一束三五錢炭一貫匁五錢。

木曾御岳四合目大波瀾小屋 A 信州木曾三岳村田中旅館 B 一泊一圓二〇錢位 C 食糧寢具燃料あり D 一月より二月三日迄冬季營業をなす

南アルプス 第二屏風小屋 A 甲州北巨摩郡駒城村中山玉樹 B 無料 C 食器あり燃料豊富にあり。

駒ヶ岳六合目石室 A 信州上伊那郡美和村戸澤竹澤長衛 B 使用料若干と薪代 C 燃料の備付あり D 當小屋は昭和五年一月始めて使用せり銀岳縦走の便よし、使用希望者は十一月中に申込むこと。

大澤池ノ小屋 A 甲州中巨摩郡芦安村大字大曾利甲斐山岳會支部 B 無料 C 燃料の備付あり D 照會の急を要する場合は甲斐山岳會又は菲崎町白鳳會宛のこと。

北澤小屋 A 信州上伊那郡美和村戸澤竹澤長衛 B 無料 C なし D 目下同所二竹澤長衛經營のスキーヒユッテ建築中、收容人員五〇人、詳細追て發表。

兩股小屋 A 北澤小屋に同じ B 無料 C なし D 登山者の申込に依り食料其他準備をなす。

三伏峠小屋 A 信州下伊那郡大鹿村信濃赤岳會 B 無料 C 燃料あり薪代として一泊一五錢 D 明六年度夏期には番人を置く計劃あり。

小蘆川廣河原宿泊所 A 三伏峠小屋に同じ B 無料 C 燃料あり薪代として一泊一五錢 D 明年度夏期には番人を置く計劃あり。

荒川ノ小屋 A 三伏峠小屋に同じ B 薪代として一泊一五錢 C 寢具なし食糧及燃料あり。

富士山 吉田口五合目石室桂屋號 A 甲州南都留郡富士吉田町池谷佐重郎 B 宿泊料二圓食料燃料を含む 使用料一人一圓燃料及飲料水を含む C 食糧は登山の際注文に應じて持參す、寢具多少の備付あり 燃料豊富、ストープの備付あり D 登山の都度經營者同行萬端の世話をなす登山の數日前人數及日時の通知をなすこと、三人以下の時は強力案内も兼業にて同行す 賃金二日間五合目往復四圓 御殿場口太郎坊・二合五勺・三合 A 太郎坊(御殿場在中畑)福島源作、

二合五勺(同上)塚本要、三合(同上)福島吉五郎 B 冬期使用料規定なし、若干の謝禮あれば幸甚 C 燃料若干備付あり D 登山の照會は御殿場驛前富士山麓保勝會事務所宛。

秋の見聞二三 今年の秋は九月末から十月初にかけて、新雪は三位連嶺を訪れたやうで、可なり深く降り積つたらしいが、その後の天氣續きで、殆ど二十日近くも照りつづいた爲に、折角綺麗に装はれた山上の新雪は大方は消えてしまひ、十月二十日過ぎだと云ふのに、後立山連嶺には雪を見ることも出来ないといふやうな状態であつた。然し季節は争はれないもので山谷を繞る霜葉は眞に絢爛の美をつくしてゐた。黒部谷は勿論のこと、高瀬谷も、龍川谷も。

荒廢せる東信歩道 元來東信歩道は、東信電氣會社が黒部川の水利權獲得の目的を以て、日本電力に相抗して造つた急造の歩道である。この道は岩壁の爆破や、棧道による所を避けて、高低が多くと山勢のよきさうな處を選んで折いたらしいの

會員通信



二合五勺(同上)塚本要、三合(同上)福島吉五郎 B 冬期使用料規定なし、若干の謝禮あれば幸甚 C 燃料若干備付あり D 登山の照會は御殿場驛前富士山麓保勝會事務所宛。

で、日電の歩道のやうに念入りには出来てゐないが、釣橋が落ちたり、棧道が崩れたりして通れなかつたりすることが少ない爲、大正十四年の夏造り放しのもので、その後暫くは都合よく利用出来たのであつたが、何しろ山側或は崖側の傾斜の急な處で、自然力の壓迫の強いこの附近では、道の崩壊することが甚しく、今夏及今秋通過して驚いた位であつた。私は年々一度位はこの道を歩いて見るが、今年は殊に酷い。尾根上につけられた道は舊の如く保存されてゐるが、溪側の廻りになると、

道は谷に向つて急に傾き、その幅は半分以上もそぎ落され、悪場になると道通し通れない所が多くなり、絶えず灌木や笹或は草を掴みながら、歩いて行くやうな状態になつてしまつた。草場に道を失したり、岩壁に行き詰つたりして行程は中々捗らない。ロープを使はないばかりの處は、四五ヶ所も出来て、棒小屋の小屋場（黒部川の源）から上流の赤澤の落口まで、眞に惡絶と云ふも愚かである。大町の入夫が、この道を辿ると尾根の縦走など易々たるものだ云つて驚いた程であつた。兎に角重い荷を背負つて、この道で日が暮れやうものなら、可なりえらい目に遭ふことと思ふ。今の内に何とか修葺すればと思ふが、何しろ廢道であつて登山者のごく少数が利用するのに過ぎないこの道の復舊はむづかしい。誠に遺憾なことと思ふ。

小屋のこと 黒部川筋には「平」の日電の小屋に冬營の人達が五人程詰めてゐるが、平の小屋には誰もゐなかつた。冬期針ノ木峠の小屋を利用せんとするものは豫め大町の對山館に通じて、鍵を借りて行かなければならない。大澤の小屋は準備さへすれば例年の通りに冬期でも利用するの何の差支もない。

冬期及早春期に小屋の欲しいのは何にしても鹿島槍方面である。近頃は大部分この山の積雪期の登山を目ざしてゐる人が多いから尙更である。

一〇、三〇 冠松次郎

越後初雪と二王子岳

北國越後の平野は霰、山々は雪に見舞はれました。十月三十日夜來の豪雨と共に氣温は甚しく下降して霰と交り、三十一日も終日降り続き、午後五時工場の歸りに信濃河畔に東の空を眺めて立止つた時、灰色の垂れ雲も吹く風が西から南へ變つて切れ始めました。飯豊連嶺に初雪來ると吹きながら辨當嶺を小脇に捲り上げて何時迄も見つめたものです。

以東岳から大朝日連峯も、扒差岳から北股岳、大日岳も、阿賀の大流の西へ連る守門岳も、越後駒から中ノ岳迄、皚々たる初雪に姿を改めてゐました。越後の冬は、冬籠りの炬燵や樹木の雪圍ひ、漬物の大根洗ひに之から忙しくなります。

十一月三日は暴風雨で、午後には雨交りの霰が飛び、四日は霰となり、すっかり冬になりました。六日には薄日が漸く射して、二王子岳、蒜場山、栗ヶ岳は勿論、菱ヶ岳、五頭山、五穀谷岳、銀太郎山と三千尺級の山々迄雪に蔽れました。

十一月二日の午後、越後山岳會員と共に二王子岳に行きました。自動車を田貝村に捨て、雨を冒して二王子神社下の造林官舎を借りて泊りました。之は北浦原郡田貝村から約二十町、二王子神社より五六町上にあります。スキーヒュッテとしても完全です。十五名位は樂に泊られ、寢具、食器、風呂、ランブ迄備へてあります。燃料は稍々不足ですが補給は簡単に出来た。人夫や物資は南俣村から得られます。官舎の使用は前以て石喜村小林區署森下富永氏の許可を要します。

三日の朝は冷雨が降り續きました。二王子神社は古來より歌垣の山として越路に名高い社です。嘗つて會員小林文平氏及高校生等と一週間拜殿内にテントを張つてスキー練習に籠つたこともあり、燃料の外は何もありませんが百人位は泊れます。社務所は田貝村高嶋景寛氏方です。山頂に近づくに連れて吹雪となり樹木は氷結し、猛烈な西風でした。吹雪の中を一王子の森へと馳せ下つて歸路に着きました。 藤島 玄

十一月の初旬、久しぶりで田部重治氏と晩秋の高原を歩いて來ました。美ヶ原より物見石山一帯は二尺

近くの新雪あり、惡戦苦闘の末中仙道の上田田の靜かな宿屋に一泊、男女倉（オメクラ）を通り霧ヶ峯を経て上諏訪に出て歸京しました。

美ヶ原三城牧場に美ヶ原登山小屋と稱する小屋あり、四季小幡香澤在泊一圓の山。冬の美ヶ原スキー行にはよい根據地と思はれます。又霧ヶ峯の八嶋ヶ池の側、鷲ヶ峯の尾根には秋の渡り鳥を獲る小屋があり、自然の岩と藁を以て作つたものです。鹿澤温泉を想はせる様な緩かなスロープが到る處にあります。小屋は冬も使用出来る由、冬の霧ヶ峯を憧憬してゐます。 角田吉夫

富士山（十一月三日）二日午後吉田發五合目池谷佐重郎所有桂屋泊。三日午前三時半出發、同十時半頂上。吉田を経て同日歸京。天候二日午前中豪雨（五合目以下）午後霽。三日午前中曇勝。午後快晴。日出前後風強。温度比較的高く頂上に於ても零下六度を下らず。硬雪例年に比し多し、吉田口六合目附近一尺餘。六合目以上は風による硬雪、八合目以上更に硬し。シユタイグアイセンを必要とす。同行者横有恒、肥田正次郎、加藤泰安。當時山頂にたてる者二十餘名。總て吉田口の登路によれり。

左に筆者の手帳より富士山に関する記録を若干記す。
一九二八年十一月二日。須走口刈安一合、夜最低二度。同三日。三合午前六時）零下四度、七合目（正午）

零下二度。（備考）十一月一日夜豪雨。三日、六合目以上氷結。但快晴無風。

一九二九年二月十日。須走口馬返（午前十時）零下五度、一合（十二時）零下七度、二合（午後一時）零下二度、五合（夜、石室内）零下二度。同十一日。五合（午後一時）零下十二度。（備考）寒氣甚。曇勝風甚強。積雪状態、風硬雪。

一九二九年三月十日。須走口三合（午後二時）零下五度。五合（四時）零下八度。同十一日。頂上（午前九時）零下十三度、五合（十時）零下九度。（備考）風強、曇勝。風硬雪。

一九三〇年一月二日。吉田口五合終夜降雪。温度最低零下二度。同三日。六合目以上強吹雪。
序ながら、——富士山はスキー地として絶対に安全なりと保障をつけたるの中に自分達の名が擧げられてあつた（十一月四日報知新聞朝刊）率直にいへば森林帯に上でスキーを樂しむ機會は寧ろ少いだらう。春の終りを除いては雪が硬すぎると思はれる。絶対に安全だとは甚しい勘違ひである。富士山は我々東京人にとっては手近くもあり、高くもあり、時には水にも出合はすし、全く大きな寶物である。そして決して失望する心配がない程伽藍も大きい。併しあの山は、不完全な準備や、のびた氣分で登らうと思つたりする人間を、非道い目にあはすに相違ない。
松方三郎

十二月圖書室當番幹事

一日	岩永	十五日	松方
三日	藤島	十七日	松本
五日	藤田	十九日	鳥山
八日	冠	廿二日	角田
十日	木暮	廿四日	浦松
十二日	横	廿六日	渡邊

山日記編輯に際して

一九三一年版山日記は既に編輯に着手して居ります、來年度の山日記に關する研究會も開かれました。此編輯に際し、山日記編輯委員は諸賢の多大なる御援助と忌憚なき御忠言を希望しております。就中山小屋及び山案内に關して左記の條項に就ての報告を御願する次第であります。

一、誤謬指摘 二、記載せざりし小屋の名稱、位置及び其照會先。

三、記載せざりし山案内組合又は山案内の住所、姓名。四、主要なる岩小屋の名稱、位置。五、報告者の住所氏名。

山の方言

來年度の山日記に山に關する地方の言葉掲載し度いと思ひます。出来る丈多くの方言を御通知下さる事を希望します。

通信先 東京市芝區高輪南町三〇 日本山岳會山日記編輯係

會報投稿に就て

締切 毎月第一木曜日

場所 東京市芝區高輪南町三〇 日

本山岳會會報係宛

紙面に制限がありますから原稿の取舍は編輯者に一任される事をお願いします。

◇會員の方々が山に行かれた時簡潔

に山の様子を記して御通知下さる事を希望します。殊に地方の會員の方々からの山の様子、山小屋、山案内等に就ての御通信を期待してゐます。

◇山小屋所有者、山案内組合の方々には料金賃銀の改正等の事がある度に御知らせ下さる様御願ひします。

編輯後記

興味深い通信をお送り下さった方々に感謝します。唯此の會報に掲載するには余りに長過ぎて残念ですが發表出来ませんでした。出来る丈短く要點を通知下さる様お願いします。地方山岳會の情勢を成る可く毎月御知らせ下さる様之もお願ひして置きます。

會報に就ての希望條件を聞かせて戴き度いと思ひます。

冬の山小屋調査は、角田吉夫氏の御靈力に依つて、大變立派に出来上りました。

編輯の不慣、及び係りの者多忙の爲めに、發行の遅れた事をお詫びします。

廣 告 一 六 半
料 段 圓 五 十 一
頁 圓 十 三

昭和五年十月二十八日印刷
昭和五年十一月三十日發行

發行所

編輯人 浦松佐美太郎

發行所

東京市芝區高輪南町三〇 日本山岳會

(刷印堂明)

美津濃のスキー スケート用品



斷然 優秀を誇る純國産品 美津濃製を始め新しい外國品等 冬の用品總てが取揃ひました。特に新製ヒツコリースキーは値段に品質に絶對他の追従を許さぬ逸品です。是非御來店を!!

一揃 (スキー・絨具・杖) ¥ 10.00 スキー賣出
(帽子・手袋)

大 阪 淀 屋 橋
東 京 小 川 町
神 戸 元 町 通

美 津 濃

名 古 屋 大 須 門 前
京 都 四 條 通
大 阪 南 日 本 橋



"アールベルグスキー"

純正米國 HICKORY 材
ROCK・BIRCH 材
美滿津の MAPLE 材

Arlberg-Ski

登 録



商 標

Hannes Schneider

冬 期 登 山 用 具 各 種

今年はスキーを始めルックサック・ピッケル等自信を持つた確かな品を作りました。値段も非常に安価だと信じます。是非一度御試用の程お願い致します。

WAX・純毛靴下・スキー締具 新 荷 着

合 名 會 社

美 滿 津 商 店

東 京・本 郷・赤 門 前
電 話 (小石川) 845. 2071.

梓 書 房

山 日 記	日本山岳會	定價 1.30 送料 .06
氷 と 雪	加 納 一 郎	定價 2.50 送料 .12
山と雪の日記	板 倉 勝 宣	定價 2.00 送料 .08
雪・岩・アルプス	藤 木 九 三	定價 3.50 送料 .27
スイス日記	辻 村 伊 助	定價 4.50 送料 .27
ハイランド	辻 村 伊 助	定價 3.00 送料 .27
尾瀬と鬼怒沼	武 田 久 吉	定價 3.00 送料 .12

東京市神田區北 甲賀町四番地
振替東京78644番 電話神田 2775

スキー用ルックサック

A ¥3.50 B ¥5.00

ルックサック・テント・スリーピングバグ
各種取揃えてあります。

明治・日大・法政山岳部御用

篠 原 商 店

東京市神田區西小川町一ノ一
電 話 九 段 (33) 二八五四番